

麻しん・風しん混合（MR）予防接種について

対象となる病気について

①麻しん(はしか)

麻しんウイルスの空気感染によって起こる病気です。感染力が強く、予防接種を受けないと多くの人がかかる病気です。発熱、せき、鼻汁、めやに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、39～40℃の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。しばらく色素沈着が残ります。

主な合併症としては、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。このように予防接種を受けずに、麻しん(はしか)にかかった人は数千人に1人の割合で死亡します。

②風しん

風しんウイルスの飛沫感染によっておこる病気で、潜伏期間は2～3週間です。軽いかぜ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主な症状です。そのほか眼球結膜の充血もみられます。発疹も熱も、約3日間で治るので「三日ばしか」とも呼ばれることがあります。

合併症として、関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎などが報告されています。年長児や大人になってからかかると、一般的に重症になりやすく、3日ではなおらないことが多くなります。

また妊婦が妊娠早期にかかると、先天性風しん症候群と呼ばれる病気により心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った児が生まれる可能性が高くなります。

接種の方法

接種回数 2回

接種期間 第1期……生後12ヶ月～24ヶ月までの間に1回接種

第2期……5歳以上7歳未満の方で小学校就学前1年間に1回接種
(いわゆる保育所・保育園・幼稚園の年長児のとき)

副反応について

副反応の主なものは、発熱と発疹です。他の副反応として、注射部位の発赤(赤くなる)・腫脹(はれ)・硬結(しこり)などの局所反応、じんましん、リンパ節腫脹、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。

これまでの麻しんワクチン、風しんワクチンの副反応データから、アナフィラキシー^{※1}、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなどの副反応が、まれに生じる可能性もあります。

^{※1} 通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと